

布をさせていただいているところでございます。  
以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 10番、赤間泰広議員。

○**10番 赤間泰広議員** ありがとうございます。  
いろいろケースがあるということで、65歳以上  
でスタートしたけれども、一人にいる方にも年  
齢を下げて使ってるということは大変結構なこ  
とだと思います。

先ほど課長が申されました、リニューアルが  
必要だと、古い情報しか入ってなかったという  
ようなことで、本当に残念なことがあるわけな  
んですけども、ぜひこのリニューアルというか、  
指導なんかの機会に常に新しい情報に書きかえ  
ていただけるような方向を検討していただきた  
いというふうに思います。一応予算的には、ど  
のぐらいこれ長井市としてとってらっしゃるの  
か、最後にお聞かせ願いたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 伊藤亮一健康課長。

○**伊藤亮一健康課長** 平成27年度の命のバトンの  
関係の予算でございますが、内容的には、民生  
委員の方に対する謝礼としまして、お一人  
1,000円というふうなことです。6万5,000  
円ですか、そのほかボトル代とか、あと、冷蔵  
庫に貼付するマグネットでありますとかシール  
でありますとか名前ラベル、そのようなもの  
諸経費がかかりますが、27年度の場合ですとそ  
れまでの在庫がありましたので、そういうもの  
を工夫しながら使うというふうな意味で、7万  
8,000円の予算でございます。ちなみに、前年  
度は23万7,000円ほど予算をつけていただきま  
して、消耗品等々を買わせていただいたという  
ふうな状況でございます。以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 10番、赤間泰広議員。

○**10番 赤間泰広議員** ありがとうございます。  
本当に少ない予算で大きな効果が得られてると  
いうことでございますので、まず本当にすばら  
しい制度でございますので、今後ともよろしく  
お願い申し上げます。

続きまして、緊急通報システムの設置につい  
てでございますが、佐藤福祉あんしん課長にお  
尋ねいたします。

これも、細々と平成22年度からの資料も頂戴  
いたしまして詳しく頂戴したところでございま  
す。大変効果があるということで、平成26年度  
では8名の方が救急車によって搬送されたとい  
うことで、命が助かったというようなことでご  
ざいましょう、多分。本当に8名の方がとうと  
い命を助けられたということで、数ではないと  
思うんですけども、今後ともこの高齢者見守  
りお伺いコールというのが大変重要になってく  
ると思うんですけども、今後のこれをもっと  
市全域に、先ほど伊藤課長にもお話ししたん  
ですけども、年々少なくなってるんですけども  
……。まだまだたくさんしゃべることがあった  
んですけど、私の希望として、じゃあ、今後、  
これからも有効な活用をしていただければな  
というふうに思います。

時間もないので、私、まだまだちょっとしゃ  
べりたいことはあったんですけども、残念で  
ございます。またの機会に質問させていただきます  
ので、本当にありがとうございました。

## 渡部秀樹議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 次に、順位12番、議席番号7番、  
渡部秀樹議員。

(7番渡部秀樹議員登壇)

○**7番 渡部秀樹議員** お疲れさまでございます。  
早いもので季節は冬場を迎え、山は白く染まり、  
町場にも朝晩冷たい空気が吹く寒い季節がやっ  
てまいりましたが、長井市にお住まいの皆様に  
は、お風邪など引かないようお祈り申し上げて  
おります。

さて、先日、視察目的で、宮城、岩手、秋田、

山形の道の駅17カ所をめぐるまいりましたが、地場産品の直売や車中泊の利用者集客に強い道の駅、レストラン機能に特化した道の駅、農業体験や情報発信に力を入れている道の駅など、その持ち味はさまざまでありました。宮城県北部の岩手、秋田の近境に10年ほど住んでいた私にとって、幾度となく訪れ、交流している道の駅が主でありましたが、そのにぎわいに驚かせられました。また、直接担当者として携わっておりました道の駅路田里はなやま「自然薯の館」では、私がプライベートで企画運営しておりましたそば祭りが8年たった今でもしっかりと継続開催されており、うれしく思いました。道の駅めぐりの道すがら、各所に設置されましたさまざまな形状の防雪柵を眺め、雪の降り方や風の吹き方によってその形状も違うのであろうかと思いつながりながら長井市に戻ってまいりました。白鷹町から長井市に抜ける国道を走りますと、そびえ立つ美しい西山から何とも言えない迫力を感じつつも、長井市に帰ってきたのだなとほっとしつつ帰宅いたしました。

それでは、通告に従い一般質問を始めさせていただきます。

一般質問は、大きく3件、10点ほどありますので、順次質問させていただきます。それぞれお答えいただきますようよろしくお願い申し上げます。

1件目は、自治公民館の備えについてであります。

市内各地には、それぞれさまざまなお祭りやイベント、行事があり、その実施母体が自治公民館単位で行われ、運営されているかと思いますが、私自身、地区の子供会育成会副会長であり、地区の獅子舞保存会の事務局でさまざまな場面で地区内の仕事や青少年の育成、後輩の指導に努めております。私個人の実践例から見ても、自治公民館は市内コミュニティーの一単位であると言えると思います。ここで気になるの

が自治公民館の備えであります。近年、自治公民館には防災倉庫や備蓄物資、防災組織が整いつつありますが、地域コミュニティーの拠点であり、災害時の一時避難所になり得る自治公民館の備えは万全と言えるでしょうか。

そこで、自治公民館を所管しております教育長に3点ほどお聞きしたいと思います。

まず1点目が、自治公民館は、地域コミュニティーの拠点として、地区のお祭り、文化活動、その他さまざまな活動に使われ、年間の利用日数も多い施設であります。音響装置による火災発生を周囲に報知いたします火災報知機、初期消火に有効な消火器設置などについて、各自治公民館はどのような状況でありましょうか。

2点目が、自動体外式除細動器、AEDの設置についてであります。

先月、地元の自治公民館で地区の防災訓練を実施いたしました。私も、隣組長及び子供会育成会副会長として、通報訓練、救助訓練や心肺蘇生法の訓練などいたしました。そのとき使用したAEDは、西置賜消防本部から訓練用のものをお借りしたものでした。訓練中に、周囲の方に119番通報とAEDを持ってくるようお願いし、心臓マッサージと人工呼吸による心肺蘇生法を開始し、その後、持ってきていただいたAEDを使用し心肺蘇生をするという内容の訓練でありました。しかし、実際、私の地区の自治公民館付近にAEDの設置の民間事業所はありません。公共施設としては公立長井病院に設置されておりますが、緊急時のことを考えますと少々不安になります。各自治公民館へのAEDの設置についてどのようにお考えでしょうか、教育長にお聞きいたします。

3点目が、自治公民館の老朽化対策についてであります。各地区の自治公民館を見渡しますと、老朽化が激しい建物も多いと思われま。新築の建物と比較すると、防火、耐火、耐震などの能力については、かなり低いものと思われ

ます。そこでお聞きいたします。自治公民館の  
老朽化対策についてどのようにお考えでしょう  
か、教育長にお聞きいたします。

続きまして、2件目は、フラワー長井線につ  
いてであります。この件に関しては、山形鉄道  
フラワー長井線、社長でもある市長にお聞きい  
たします。

1点目が、フラワー長井線を今後どのように  
経営していくのかについてであります。

先日、市長は、知事に、山形鉄道フラワー長  
井線の次年度以降の経営計画を持参しつつ、支  
援をお願いしに行ったと聞いておりますが、市  
長はフラワー長井線を中期的にどのように経営  
していくお考えでしょうか。また、どのくらい  
重要なインフラとお考えでしょうか。

2点目は、イベント列車等の企画運営につ  
いてであります。

イベント列車等の企画営業等の業務を行って  
おりました前社長が退任した現在、社長業務は  
市長が行っていると思いますが、新たなイベン  
トの企画立案営業運営についてどのようになって  
いるのでしょうか、市長にお聞きいたします。

続きまして、3件目は、観光交流センター、  
かわと道の駅についてであります。この件に関  
しましては、常任委員会等で商工観光課長から  
は手法やプロセスなどを聞いておりますので、  
できますれば市長のお考えをお聞かせください。

1点目は、観光交流センターの指定管理決定  
のスケジュール等についてであります。

管理は指定管理、指定管理者は、一般財団法人  
置賜地域地場産業振興センターの予定と聞いて  
おります。いつごろ指定管理者を決定するの  
でしょうか。また、地場産業振興センター1社  
のみで、プロポーザル等の入札はしないのでし  
ょうか、お聞きします。

2点目は、本町商店街の中核であるヨークベ  
ニマル長井店閉店に伴うまちなかのぎわいづ  
くりへの影響と対策についてですが、まちなか

への誘導と、にぎわいづくり等を目標とする観  
光交流センターにとって、長井市のまちなかの  
中核であった店舗の撤退が与える影響は大きい  
と思います。ヨークベニマル長井店は、昭和63  
年オープンから長井市のにぎわいの場として、  
各種テナント、生鮮食料品から衣料品まで幅広  
い品ぞろえで営業してきた店舗でありました。  
私自身、ヨークベニマル長井店出身で、社員と  
して各店舗の援助を含めると約5年で10店舗  
ほど人事異動を重ね、当時の社長でありました  
故大高善二郎氏から、「ヨークベニマルは地域  
の台所であり、冷蔵庫にならねばならない」と  
教え込まれた経験があります。前社長は2006年  
9月9日、68歳の若さで亡くなりましたが、  
すばらしい方でした。時代は変わり、社訓も変  
わってしまったのでしょうか、このたび撤退と  
相なったようであります。この本町商店街の中  
核であるヨークベニマル長井店閉店に伴うま  
ちなかのぎわいづくりへの影響と対策について  
どのようにお考えでしょうか、市長にお聞きい  
たします。

3点目は、観光交流センターかわと道の駅開  
業後の市民直売所おらんだ市場菜なポートの経  
営についてでお聞きいたします。

当初計画では、おらんだ市場菜なポートは観  
光交流センター内に直売所機能としておさまる  
といった内容だったと思いますが、現在、市長  
は当初計画どおり閉店をお考えなのでしょうか。  
それとも中心市街地の直売所として継続経営を  
お考えでしょうか、市長にお聞きいたします。  
先日も同じ質問があったと思いますが、繰り返  
しになりますが、よろしくお願ひします。現時  
点のお考えで構いませんので、よろしくお願ひ  
いたします。

4点目は、観光交流センターかわと道の駅開  
業後の付近の交通計画についてお聞きいたしま  
す。

観光交流センター建設地沿いである長井バイ

パスは、もともとが市内でも有数の交通渋滞を引き起こしやすい利用頻度の高い道路であります。道の駅として開業いたしますと、大幅な交通量の増加が予測されます。これは道の駅としての数億円の売り上げから割り出された車両の増加と、道の駅にとめ、まちなかを歩く観光客数の予測ですが、主要道路の渋滞は周囲の細い道路の利用増を招きます。道の駅予定地周囲には、長井小学校や長井めぐみ幼稚園、中央地区公民館がある市内の文教ゾーンのような場所でもあります。通学・通園時の危険性が増すと思われる。さらに、放課後に長井めぐみ幼稚園の児童クラブに通う子供たちへの安全性の確保も必要と思われます。当初計画時に交通分析はしっかりと行っているとは思いますが、どのようにお考えでしょうか、市長にお聞きいたします。

5点目は、観光交流センターかわと道の駅の経営についてであります。

現在、道の駅として指定管理による運営を予定しているということですが、指定管理者はあくまで包括的な管理運営者であります。経営理念や運営骨子については、行政サイドで整え、それに従って指定管理者が包括的に管理運営を代行するものです。必要に応じて助言、指導、協力ができる体制を整えなければ丸投げになってしまいます。運営に関しても、安定した軌道に乗せるため、助言や指導が必要となると思います。さらに、市長は地場産業振興センターの理事長でもありますので、市長としてのトップセールスはもとより、新しい玄関口になる道の駅の経営者としてリードをとっていただきたいと思っております。この件についてどのようにお考えでしょうか、市長にお聞きいたします。

以上をもちまして壇上からの質問は終わります。ご清聴ありがとうございました。

(拍手)

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 渡部秀樹議員から私のほうは7点ほどご質問、ご提言をいただいておりますので、お答えさせていただきます。

まず最初に、フラワー長井線についてでございますけれども、議員からは、今後どのように経営していくのかと、特にどのぐらい重要なインフラであると考えているのか、また、イベント列車等の企画運営、これについてはどのような方法で進めていくのか、どうなっているのかという、まず最初の2点でございます。

どのぐらい重要なインフラかということですが、まずは基本は、沿線住民の皆様の特に交通弱者と言われる方たちの貴重な交通機関、足であるということです。特に1点目としては、沿線に県立高校が4校ございます。フラワー長井線の沿線の高校のよいところは、それぞれ駅から幾ら遠くても10分以内ということで、これはほかに類を見ない便利さだということだと思います。現在4つの高校の在校生が1,600名いらっしゃるんですが、うち4割の640名が利用されているということです。それから沿線の中学生は2市2町で約2,000名いるんですが、今後、自分の進路をどうするかといったときに、まず親に学校まで送ってもらうんじゃなくて、自分で歩いていたり、自転車で行ったり、そして鉄道に乗っていけるというのが重要な選択でございますので、そういった意味では、何としても地域の活力の源である県立高校生、この高校生のための重要な足ということが、まず第1点目。

あと2点目は、高齢者などの交通弱者、また、障害者の方などもよくご利用いただいておりますが、こういったところの足の確保ということだと思います。

あと、3点目といたしましては、確かに今は車社会ですから、以前から比べれば鉄道というのはもう交通機関としての使命というのは本当

に交通弱者のためだけで、大分この役割は薄らいでますが、反面、今、全国的なブームというよりも定着してますよね、鉄道に対するさまざまな郷愁も含めて、あるいは鉄道が好きだという方たちがいっぱいいらっしゃるんで、あとは、沿線の2市2町にすばらしい観光資源があるということで、そういうところから見ますと、鉄道そのものが観光資源、地域の資源であるということ、これが3点目です。

あと、4つ目は、今もCOP21ということで世界的な、京都議定書から今度、新たにどのようなようにしてCO<sub>2</sub>を少なくしていくかというようなことが先進国を中心に話し合われているわけですが、そういった意味では、環境負荷とか、あるいは安全性に非常にすぐれている乗り物であるということ。

あと、5点目は、バスとか道路、それと鉄道の比較でいきますと、定期性っていいですか、ほとんど時間どおりに運行できるとか、あとは事故がほとんどない信頼性と事故が少ない安全性、そういったところの5点だと思ってます。

こういったことを踏まえて、特にこれから地方創生の時代、こないだの土曜日の国土交通省のキャリアの官僚の方を招いての懇談会で私もお話し申し上げましたけども、こないだ東根で住まいと住宅に関する意見交換会というのがあったんですね。東北の首長が五、六人呼ばれまして、あと、国のほうの国交省の都市局とか住宅局とかの方々がいらっしゃったんですけども、その中で開催地の東根市長がおっしゃったのは、これからの地方創生の時代で、いわゆる三種の神器と言われる空港、新幹線、高速道路、うちは全部そろっていると。そのとき思ったのは、いや、うちは全然ないなということですよ。それでもそんなに不便じゃないですよ。高速道路もすぐそばまで来てますし、ましてや東北中央自動車道も2年後には米沢まで、3年後には上山まで全部つながると。ですから地域高規格道

路もあればそんなに不便じゃないと。あとは、赤湯駅あるいは米沢駅でも、そこから新幹線で乗り継げば、あるいは乗り継ぎがなかったら車でもそんなに不便じゃないと。ただし、我々はそうなんです、都会からいろんな商用とか、あるいは観光で来た場合、長井に来るときに米沢から今泉までは来られます。あと、赤湯までは来られます。そこから足がないんですね、これ致命傷ですね。

ですから私は、たとえ沿線の2市2町で足並みがそろわなくて、フラワー長井線廃止だといった場合、じゃあ、長井市だけでもやりたいと。白鷹さんもやってくれるとは思いますが、例えば白兔から今泉まででもいいですから、もう絶対やったほうがいいです。お金もかかるんですけども、それは私が生きてる以上は、市長じゃないとしても住民運動しても絶対残さなきゃいけないと。これがなくなったら地域の未来はないと。よく言われてるのは、高校から違うところに行かない地域というのは、もう卒業したら地元の子供はもう9割以上帰ってこないと言われてます。それは、高校から通勤、通学できなくていわゆる下宿なんかしたら、もう戻ってこないと。ですからそういった意味では、鉄道は非常に重要だというふうに思っております。

あと、2つ目のご質問でございますが、これは、こないだ11月30日に吉村知事に要望した内容も含まれておりますので、そのときの状況をお話しして答弁にさせていただきたいと思えます。

知事に要望した内容については、山形鉄道に係る支援の拡充についてということなんです、これは、6月に沿線の2市2町でいわゆる上下分離方式を私ども目指していくということで、議会からもご了承いただいてその準備を進めています。ついては、新しい経営改善計画をつくれますので、知事にもご指導いただきながら、

ぜひいろんな面でご支援いただきたいというお話をしてきたんですが、それで新しい経営計画の骨子が出たもんですから知事のほうにご報告に行って、そして支援をお願いしてきたところだったんですね。

どういうふうな新しい経営改善計画かということなんですが、渡部議員ご指摘のとおり、前社長がやめましたので、現在、企画とか営業の専門の社員はいません。結局、高校生はどんどん減っていくと。ところが、切り詰めるだけ切り詰めてますので、もう切り詰めるところがないんですね。ですから人件費を切り詰めるしかないです。ですから少しでも人件費の総枠の中で新たにお金をかけなくていいようにせざるを得なかったんですね。ですから現在いません。ただ、常務と専務に基本的にそのカバーしてもらってるということです。そういったまず基本的なことを踏まえてですが、山形鉄道においては、収入の減少や組織体制が非常に脆弱であると。それから社員そのものもパート、臨時の方を含めて30名でやってますので、正職員は21名です。情報発信の弱さというのが非常に弱点なんですね、課題であります。

3つの基本的な考え方により、収入確保を図っていくという計画を立てました。1つは、情報発信力等の強化。今まで全く人もいないし、やってきてないと言ったほうが正しいです。あと2点目は、体制強化ということで、企画・営業分野のマンパワーを拡充しようということ、あと3点目は、地域連携の拡大ということで、通年型旅行商品の企画実施、地元利用の拡大を図っていくということで、具体的に5点ほど上げております。まず1つは、ITを活用した情報発信力等の強化により、新たな収入源を確保するとともに関連グッズの販売強化を行うこと、また2点目としては、2市2町におけるふるさと納税の返礼品へのグッズの活用、また3点目は、収益の大きな柱である高校生の利用促進、

4点目の地域との連携強化による地元企業等からのご協力、収益確保を目指していくというものでございます。

こういったものの計画を立ててるんですが、その柱は何かというと、今まで山形鉄道は、県と2市2町から毎年赤字がもう膨大で、8,000万円、9,000万円です、現在はもう1億円近いと。それについて赤字の補填だったんですね。赤字の補填ですから、計画に基づいて何とか計画を達成すれば、県と沿線の2市2町からの支援額というのは何とかその範囲で済みます。それが赤字が多いと、もう残り少ない5,000万円切った基金の中から、またさらに出す。そういうことで、結局どういうことかということ、社員が幾ら頑張っても改善できないんです、社員の待遇が。ですからモチベーションがなかなか上がりにくかったと。ひどい話で、15年ぐらい定期昇給できなかつたんです。ボーナスも業績によって大体1カ月ずつ、年間2カ月ぐらいを目標にしてるんですが、ゼロのときもありましたし、0.5カ月とか、もう頑張ってるにもかかわらず、東日本大震災だということで観光客が減ったから、じゃあ、ボーナスゼロですと、こういうことをやってこざるを得なかつたんですね。これではだめだということで、いわゆる今度は赤字補填じゃなくて、経費の部分の運行にかかわる部分と、それから鉄道の施設整備に係る部分を分けまして、その施設整備に係る部分を公共で持っていこうと、負担しようという考え方です。

運営については、もう最初から怠慢、今までどおりやってたら赤字なんですね。ところが、さっき4つほど言いましたけど、いろんな取り組みをしますと、黒字になる可能性が高いと。そうになったら自分たちのいろんなところを改善したり、あとは、営業にお金をかけられなかつた、例えば車両にお金をかけられなかつた、もう外装もひどいものですよ、内装も。そうい

うところのお金がないんですよ。こういったものをできるような構造改善をしようというのを今回知事のほうにお話して、前向きにご検討いただくということをお願いしたことでございますが、これが上下分離方式といいまして、いわゆる鉄道施設を公共で持って、運営を山形鉄道のほうで責任を持ってやると。そしてこれを国のほうに鉄道事業再構築事業ということで申請し、認めていただいた場合に具体的にはさまざまな国の支援をいただけるということで、経営の健全化を目指していこうというものでございます。済みません、長くなりました。

次、2点目の観光交流センター、かわと道の駅のご質問でございます。ご質問は、ここは5点ほどいただいておりますので、できるだけ早く簡潔にお答えしていきたいと思っております。

指定管理者決定のスケジュールについてということでございますが、観光交流センターの指定管理者決定のスケジュールについては、平成28年9月に、来年の9月ですね、施設完成時期に合わせて観光交流センターの設置条例を、やはり完成しないうちに設置条例はできないだろうという私どもの考えです。ただ、議会のほうで、それでもいいから早くしたほうがいいんじゃないかということであれば、私どもとしては提案させていただきたいとは思っておりますが、やっぱりできた後ということですね。来年の12月に管理指定の議案を上程いたしまして、お認めいただきましたら、相手方との協定を平成29年4月に締結する予定です。

指定管理者を一般財団法人の置賜地域地場産業振興センターとしたいということをお申し上げておりますが、これは9月の市議会定例会の全員協議会におきまして説明をさせていただきました。建設に活用した都市再生整備事業では、基本的に営利事業が目的ではございません。ですから、営利事業ができないと言うのは語弊があるかもしれませんが、営利事業もしなきゃい

けないんですが、それで利益を上げる施設ではないと、これが大前提なんですね。したがって、公益事業を行いながら物産や農産物についてのノウハウを持つ地場産業振興センター、ただいま物産館と、それから菜なポートを運営していますので、ここ以外にないだろうなというふうに考えているところでございます。したがって、プロポーザルによる入札は現在のところ想定していません。

ちなみに、やはり観光交流センターの着工をしたということで、いろんなところからさまざまなご提案とか、あるいはアドバイスをいただいております。そのときに、とにかく儲けるようにしないとだめだと。そのとおりなんですけど、例えば今度米沢の重点道の駅というのは、あれ基本的に、現在22億円の予定ですが、16億円が米沢市なんですよ、6億円が県という予定なんですね。なかなかその金額では済まないかどうか分からないですけども、ただ、16億円は何ですかということ、全部単独事業なんですよ。ですから単独事業だったらできるんですね。あとは隣の飯豊町さんとか小国町さんとか白鷹町さんのように、過疎債みたいなのでやればできるんです、これは収益事業として。もう最初から道の駅でできるんです。ところが、私どもはパッケージ事業として、観光交流センターと、あとまちなかの生活環境整備ということで、道路、河川あるいは消雪道路などの整備も一緒にやっていますんで、そういったものは補助率が高いわけですけども、その分、目的は公共の別にあるということですね、収益を上げることではないということでございます。

2点目の本町商店街の中核であるヨークベニマル長井店閉店に伴うまちなかのぎわいづくりへの影響と対策についてということで、これは、渡部議員がヨークベニマルのほうにもご勤務なさったということで、いろいろそういう流通業界のことは詳しいと思っておりますし、私も、今

のヨークベニマルを別に批判するわけじゃないんですが、非常に残念ですね。ヨークベニマルはやっぱり東北のスーパーとしてはもう一番の大きい会社ですから、それなりに我々は信頼してました。ところが、今の経営者というのは本当ひどいと思います。利益のためだったら関係ないと。今までそんな20年、30年お世話になっても、もうだめなものはだめだからと、しかも礼を尽くしてだったらわかるんですよ、非常に失礼です。やっぱり長井市みたいに小さいまちは、もう我々は関係ないと、そういうことでも言いたいような、そういう仕打ちを受けました。

ただ、議員おっしゃるように、優先すべきことは市民生活の影響であるということですので、それをできる限り回避しなきゃいけないと。昨日の今泉議員、また、前々日の五十嵐議員のお答えにも申し上げましたけれども、やはり改めて思うことは、私ども商工会議所としっかりとスクラムを組んで、オーナー会社であるタウンセンターさんと、その親会社である中央信組さん、ここをきちっと、テナント会も含めて協議のテーブルを設けて、どうするかということ、もうしようがないので、こちらからお願いします。何回も声かけて、本来は向こうから来るのが筋ですよ。けども、中央信組の常務はこういうこともおっしゃってるんですね。長井の例えば経済振興とか地域活性化を地元商店街と、あるいは市と商工会議所と一緒に、我々中央信組が頑張らないと長井の未来はないと思ってると。そして同時に、我々中央信組の存在もなくなるんだということをおっしゃってましたんで。ただ、どうも動きが鈍かったので、私も少し憤りを感じておったんですが、そんなことも言うておられませんので、ぜひ再度、会議所のほうも説得しながら同じテーブルを設けて、今後どうするかと具体的に動き出していきたいと思います。ぜひ渡部議員からもご

指導、ご提言などをいただければというふうに思います。

それから、観光交流センター、かわと道の駅開業後の市民直売所おらんだ市場菜なポートの経営についてということですが、これにつきましては、昨日も申し上げましたが、地場産業振興センターで2つの店舗を運営するというのは、基本的に農産物とか扱う品物の関係、あと、人の関係があって不可能だと。したがって、あそこの場所については、私どもで地場産業振興センターで運営するのではなくて、また違った意味の施設という位置づけをすべきじゃないかと。それについては、以前からやっぱりあそこはあそこで農産物の直売所として必要だという声もありますので、食と農の総合センターというような、仮称ですけども、そういった位置づけにして、レインボー野菜の振興とか、あと、直接買える、あるいは地産地消を進めていく、また、買い物難民の方というのは、例えばヨークベニマルが新たな店舗が入ったとしても、当然まだまだいらっしゃいますんで、そういった人たちのために巡回販売するとか、そういったことを含めた施設、店舗として考えていくべきじゃないかなと。これは来年、再来年になるわけですから、来年1年準備をしながら考えていきたいと思いますので、ご指導いただきたいと思います。

あと、開業後の交通計画についてですが、議員ご心配のところはよくわかりますので、米沢方面から北進する車について、荒砥のほうに向かう車ですね、東町交差点を右折して、長井小学校の十字路ですね、そして日産前、市道神明野川線を通して駐車場に入るルートを考えてます。白鷹方面から南進する車については、287号線から直接左折して入れるわけですね。これが最初の予定だったんですが、これをプラスして、今年度、警察及び山形県と交差点協議を進める上で特に北進車については、どうしてもそ

この交差点を右折しないで真っすぐ行く車があるだろうと。ここに観光交流センターのかわと道の駅があるから入りたいと思って右折する車が出てくるんじゃないかということで、そういった警察とか県のほうで想定をされまして、現在ある287号線の右折レーンを、今もあるんですけども、それを変形して少し拡大してレーンをつくるんですね。したがって、白鷹のどりいむ農園みたいに、あそこも右折レーンをつくらせていただきましたよね、追突事故が多いということで。そういったような形で、それも補完するためにつくったらどうだということで、これは合意も私どもしたところでございます。それによりまして、287号線に面した出入りが北側へ移動することになります。あくまでも大型車がメインの進入口は東町交差点を右折するルートですが、2段階の進入口を設けることで交通渋滞の緩和策になると考えています。右折レーン及び道路の拡幅等の工事については、山形県に現在要望しているところです。

また、議員からありましたように、放課後の長井めぐみ幼稚園の学童クラブに通う児童についてですが、現在の児童数は26名で、来年度は33名から40名になる見込みだと、募集中ということで、通園経路は、東町交差点を渡り、国道287号線の歩道を通して観光交流センター敷地内南側からの歩行者専用道路というのをつくりますので、それを通してめぐみ幼稚園に行くようなルートで、安全性には特に配慮をしておるところでございます。多分開店当初は、朝日町の「りんごの森」みたいに、1週間、2週間ぐらいはちょっと渋滞することが考えられますが、ある程度落ちつきますと、平日はそんなに渋滞っていうのはないと思うんですね。朝晩は観光交流センターというのはほとんどあいてませんので、朝晩入る車はほとんどないと。ですから土日がメイン、あとは、平日は日中ということでございますので、その辺は十分配慮していき

たいと。それと対岸の金井神、日の出町側のさくら大橋から長井橋までのいわゆる堤防の市道、堤防を市道として通らせていただくというのが、震災の影響で、本来であれば29年ごろには全線開通の予定だったんですが、それが30年か31年まで延びそうです。ただ、それができますと、相当真っすぐ白鷹方面に行きたい人たちは、そちらを通れば近道にもなるわけですから、道路の渋滞緩和になるかと思ってます。以上、この件についてお答えさせていただきました。

最後に、観光交流センター、かわと道の駅の経営についてですが、時間もありませんので、私の考えということなんですが、まず基本は、議員がおっしゃったように、全国の道の駅ってそれぞれ特徴があって、何を売りにしてるかというのがあります。私たちも、地元のおいしい野菜であったり、特産品であったり、食品加工品であったり、あと、当然ブランド化するような商品は売っていきます。その一方で、何といっても特徴的なのは、観光交流センターという観光プラットホームをそこに置くと。観光協会も入るわけですし、観光ボランティアガイドの皆さんにも常駐いただきながら、長井の観光交流の拠点にしたいということでございます。

あと、店舗機能は1,000平米弱ということで狭いんですが、やはり外にいろんなコンテナなどを置いて、いろいろそこで販売するようなことで地域、地域の特色を出していきたいと。あとは、できれば、こないだも提案いただきましたように、鈴木議員からもありましたが、ちょうど東側が最上川で、フットパスや、それから藩の船着き場、船通し水路とか、そこに駐車場は何とか準備しなきゃいけないと思ってますが、そこを含めた環境整備をすることによって、川と一体の道の駅というようなことで魅力をつかっていきたいというふうに思ってます。以上でございます。

○渋谷佐輔議長 加藤芳秀教育長。

○加藤芳秀教育長 私には、自治公民館の備えについてということで、3点のご質問をいただきました。

初めに、自治公民館における消防設備の設置状況についてお答えいたします。

消防署を今、確認させていただきまして、自治公民館についての考え方をお聞きしたところでございます。自治公民館の利用者は近隣の住民がほとんどであり、施設の状況などを熟知しているということなどを考慮いたしまして、基本的には基準を設けてございまして、延べ面積で300平米以上の自治館に対して消火器などの設置を求め、それ以下の自治館に対しては、適正な維持管理を指導するというようにしているということでございました。300平米以上という基準によりますと、中道公民館のみが該当いたしますが、中道公民館においては、消火器及び自動火災報知機などが設置されてございます。その他の自治館については、基準外の施設でございますけれども、自主的に消火器を設置しているのは16館、自動火災報知機は白兔、大久保公民館で設置されているようでございます。なお、この数字は消防署で把握しているものでございまして、自治公民館87館全てをこちらで確認したというものではございません。

それから、AEDの2点目の設置についてでございますが、AEDは、現在、館町公民館と子坂公民館において自主防災組織の活動の一環として整備されたということでございます。そのほか幾つかの自治公民館に確認をいたしましたが、現在のところ配置はされていないようでございます。

AEDの配置についてどう考えるかのご質問でございますが、一般財団法人日本救急医療財団からAEDの適正配置に関するガイドラインというのが平成25年に出されてございます。それによりますと、心肺停止のリスクが高くなる駅とかホテル、デパートなどの大規模集客施

設あるいはスポーツ関連施設、市役所や市民会館などの比較的規模の大きな公共施設などに配置が推奨されているということでございました。今年度、長井市においては、ようやく全ての地区公民館に配置された状況でございまして、さらに各町内にAEDが配置されれば安心感が増すかと思われませんが、非常に高価なものでもございますので、民間会社における設置状況あるいは自主防災といった面も含めて、それぞれの地域の中でどうあればいいかという点について総合的に検討すべき課題であろうかというふうに捉えております。

3点目の自治公民館の老朽化対策についてでございますが、市においては、自治公民館の施設整備の改修に対して、自治公民館施設設備等補助金を準備してございます。その申請状況を見ますと、近年、トイレの洋式化などもございますが、屋根の塗装でありますとか畳の表がえなどが多く出されております。こうした状況を見ますと、改修が必要になっている館がふえつつあるのではないかというふうに思われます。補助金については、増改築や修繕、設備、備品等の購入において、上限を400万円といたしまして事業費が10万円以上のものに補助するものでございまして、補助率を平成25年度から、それまでの2割から3割に上げて、より改修に取り組めるようにしておるところでございます。こここのところについては、近隣市町と比較しても遜色のないものではないかなというふうに思っております。当面はこの制度を活用していただきながら、整備に取り組んでいただければというふうに考えております。

○渋谷佐輔議長 7番、渡部秀樹議員。

○7番 渡部秀樹議員 まことに丁寧な答弁、ありがとうございます。

まず1点目、自治公民館の備えについてですが、火災報知機、消火器等、基準に満たさない施設に関しては地区に任せているという現状で

あると思いますが、所管課として、これはお願いです。毎年1回や2回、どうですかという確認ですとか、あったほうが良いと思いますよ程度の文章を添えるなり、これは地区公民館を通してで構いませんので、あるべきではないかと思えます。年に1回、2回であればそれぐらいできると思えますし、そういった地区にお任せしている自治公民館でもありますので、地区が必要とあれば地区で備えることも十分考えられますし、また、そのときに補助金等があれば、市長部局を通してご紹介いただければと思います。

そしてAEDの設置についてですが、確かにAEDに関してはすごく高いものですね、わかります。国でも設置基準はかなり緩やかなものだというのは、高額なものでもありますし、1回買えば生涯使えるものでもありません。私自身、心肺蘇生というのを実際経験がありまして、亡くした方も3名います。救った方も3名。しかし、AEDが使用を認められてからは2名確実に命を救いました。たまたまそういう職場のほうに私も栗原市時代にいたもので、本当たまたまなんですけども、研修も受けてこいということで受けさせていただきまして、今、地区のほうでもAEDが使える方がふえております。市当局の、そして消防本部のご指導のもと、かなり地域の防災力も上がっておりますが、使えるということは、もしものときに使いたいものです。1秒を争う心肺蘇生であります。ですから各地区に1つなんて言いません。各市内に1つでも多くAEDが設置されますよう助言のほう、協力を市長部局を含めましてお願いしたいと思えます。

続きまして、自治公民館の老朽化ですが、400万円を限度として補助金があるのは私も知っております。ただ、なかなかこれは敷居が高いものでもあるのが現実であります。私の地区でも、地区長が喉まで出ている状態で、大体ニ

ュアンスわかります。確かに私は、小さいころから快適に公民館の活動でさまざまなものを学ばせていただいております。今後も、市当局、そして教育長部局からさまざまな助言をいただきまして、快適な公民館活動ができますよう、地区とも話し合いを重ねながら進めていただきたいとご期待申し上げております。

続きまして、フラワー長井線の件についてであります。

市長から、さまざまな熱意のあるお話いただきまして、まことにありがとうございます。市単独でも路線が縮減されても残したいという思いを聞かせていただきまして、ほっとしております。このフラワー長井線は、本当に皆さんご存じでしょうが、赤字路線で賛否がある大きな課題になっているわけですが、あすの長井市を担う学生にとって本当に必要な不可欠なインフラであります。さらに、観光産業にしたいと、まちなかのにぎわいづくりを目指す長井市にとって、現在、知名度がまだ不足しているものもあります。観光客にとっても重要なインフラです。うまく使っていくべきではと私も思っております。赤字路線ではありますが、常に長井の名前を背負って、南陽、川西、長井、白鷹、2市2町を走り続けております。もちろん経済的に努力は必要かと思えますが、ある程度、観光に資する広告料と考えれば、そんなにひどいマネジメントではないと私は思います。

そこで、1つ提案ですが、先日行われましたふるさと長井しあわせ応援大使サポーター意見交換会で、私、観光振興戦略分科会のほうでございましたが、そこで上げられた提案です。JR赤湯駅の乗りかえ時のアナウンスです。山形鉄道への乗りかえのお客様はみたいなことですね、フラワー長井線の名前が出ないんです。非常にもったいないと。せっかくフラワー長井線、名前を持って「長井」とあるわけですから、ぜひJRのほうに、フラワー長井線へのお乗りかえ

はというようなお言葉に変更を依頼してはいか  
がかと市長にお聞きいたします。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 大変貴重なご提言をいただきま  
した。おっしゃるとおり、山形鉄道としか言っ  
てないですね。そのこのところ、しょうがないの  
かなというふうに諦めて何も感じてない自分が  
おりましたので、おっしゃるように、フラワー  
長井線への乗りかえと、山形鉄道フラワー長井  
線ということで、これはJRの仙台支社にお願  
いすると、可能性はゼロではないだろうと。あ  
とは、新幹線を運行している保有会社の車両も  
ありますので、その辺を早速ちょっといろいろ  
検討してほしいと思います。提  
案ありがとうございます。

○**渋谷佐輔議長** 7番、渡部秀樹議員。

○**7番 渡部秀樹議員** ありがとうございます。  
早急な対応のほど、よろしく願います。  
決して悪い答えは帰ってこないと思います。行  
政というのは、割とそのままだなって流してし  
まいがちなんですけれども、民間の方は気がつ  
くもので、いいお声をいただきましたので、よ  
ろしく願います。

続きまして、イベント列車等の企画運営につ  
いてであります。財政的に苦しいというのは私  
も存じております。市長から知事のほうにさま  
ざまな提案を持って陳情に行くと先ほどお聞  
きしまして、これ1つ提案なんですけれども、少  
し攻めの姿勢でここは経営改善しながら取り組  
んでほしいと。そこで、イベント企画・運営が  
できる若手のスペシャリストの育成をしてはい  
かがでしょうか。市内の人材を登用しても構い  
ませんが、定住を条件としまして大学の新卒者  
を雇い、育成することもよいと思います。地域  
づくり系のゼミを専攻している大学生は非常に  
心強く、即戦力になります。日本全国で活躍  
している事例もあります。例えば東洋大学国際観  
光学科という科があるんですが、国内外で活躍

できる観光の人材を育成しています。このツー  
リズムコースでは、1年のときに既に国内旅行  
業務取扱管理者という、なかなか難しい試験で  
すけども、これを習得します。2年のときに難  
関であります総合旅行業務取扱管理者に挑むよ  
うに指導しております。やりがいのある仕事を  
希望する若者は多く、地方に職場を求める傾向  
もあります。私の知り合いも、そこから秋田県  
のほうのすごく、山形でいうと小国町よりもち  
ょっと奥のほうのような地域ですけども、そこ  
で一生懸命頑張っている若者がいます。ですの  
で、お声がけをしてみるのも一つの例だと思  
います。市長のトップセールスとともに同伴して  
いただきまして各地域に回ってもらいますれば、  
成長が望めると思います。この件に関して市長  
にお聞きいたします。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** いろいろご提言いただきまして、  
ありがとうございます。山形鉄道では、現在、  
フラワー長井線では、スマイルプロジェクトと  
いう、沿線の住民の皆さんがご協力いただいて、  
山形経済同友会の賞をいただいたところでござ  
います。あと、おもしろい企画としては、プロ  
レス列車ということで、本当にこれは全国紙で、  
スポーツ紙等々で話題になりました。こういっ  
たものも若い人たちの力です。ご提言いただき  
ました件につきましては、今まではちょっと無  
理だったんですね。というのは、もう人件費が  
限られておりましたんで、とてもそんなことで  
雇えるお金がなかったと。ですから地域おこし  
協力隊で何とかしたいと思ってたんですが、来  
年度からは国の認定をいただいて、県と沿線か  
らも支援いただけるということが確定しますと、  
それなりの人件費は山形鉄道の責任で今度はい  
ろいろ雇用することができるということになり  
ますので、鉄道好きな方っていらっしゃるん  
です、ただ、そんなに給料は高くは保障できな  
いんですが、ぜひそういったことも含めて募集

をしてみたいというふうに思います。今後ともよろしくご指導いただきたいと思います。ありがとうございました。

○**渋谷佐輔議長** 7番、渡部秀樹議員。

○**7番 渡部秀樹議員** 市長、答弁ありがとうございました。問題はさまざまありますが、私も、いろいろ助言、協力のほうをしていきたいと思っておりますので、長井市を挙げて取り組んでいきたいという課題ではあると思います。よろしくをお願いします。

また、その他の部分、まだ話したいことはいっぱいあるんですが、次回に持ち越していきたいと思います。以上でございます。ありがとうございました。

○**渋谷佐輔議長** ここで、昼食のため暫時休憩します。再開は午後1時といたします。

午後 0時00分 休憩

午後 1時00分 再開

○**渋谷佐輔議長** 休憩前に復し、午前に引き続き会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

### 梅津善之議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 順位13番、議席番号9番、梅津善之議員。

(9番梅津善之議員登壇)

○**9番 梅津善之議員** 12月の一般質問、最後の質問になりました。先ほど議員会の控室で議員会長より、今年度の忘年会は議員は全員、二次会まで、市内の活性化のために行くんだと、産建委員長は率先してその先頭に立ってくれとい

う話がありました。私もそのとおりだと思いますので、ぜひ当局の皆様も、そのように市内の活性化のために頑張ってくださいと思います。

では、温かい話を1つさせていただきたいと思います。

全国学校給食甲子園に我が長井市学校給食共同調理場が決勝大会に出場されましたこと、本当にうれしく思うところでございます。環境型農業のレインボープラン、そしてレインボープラン認証米、はえぬき1等米を使って、馬のかみしめと合わせたご飯、レインボープラン認証の秘伝豆の揚げ出し豆腐、そしてもつてのほかの菊のおひたし、そして何より温かい「旨s i o芋煮」と伊佐沢のリンゴ、これが今回の甲子園での学校給食のメニューだったとお聞きしております。結果はいざ知らず、その取り組みや長井のPR、そして市民の思いが届けられたあったかい給食だったと思っております。そして市長並びに当局の皆様には、長井市の学校給食より温かい答弁をお願いして、質問に入りたいと思います。

まず1点目です。歯と口腔の健康づくり条例の考え方についてです。

健康日本21ながい第2次によれば、平成12年に国が21世紀における国民健康づくり運動をスタートして、長井市も生涯にわたる健康づくりの設計を基本理念とした健康日本21ながいを策定し、健康で心豊かに生活できる活力ある生活を目指し進められてきたと考えます。メタボリックシンドロームの減少、後期高齢者医療制度の創設、食育基本法の制定など、地方自治体の健康、医療の政策は大きく変化したと考えます。国においては、これまでの健康日本21の施策を評価して、平成24年7月に国民健康増進運動の推進を図るため基本的な方針が定められ、社会経済の変化や少子高齢化を見据え、健康日本21ながいの第2次が策定されました。本計画は、